

9 糸島市九州大学国際村構想への協力 産学官金連携による学術研究都市づくり

福岡県・糸島市 | 西日本シティ銀行

糸島市、九州大学、西日本シティ銀行、不動産会社等が連携して、移転新設された九州大学「伊都新キャンパス」周辺の国際化に向けた取組みがスタートした。九州大学を核とした学術研究都市として、海外留学生や外国人研究生が集まる多文化共生のまちづくりを目指す。



糸島市の観光スポット 桜井二見ヶ浦 (Microsoft Bing)



糸島市の概要

【人口】102,432人（2021年3月末時点）

- ・糸島市は、中国の歴史書「魏志倭人伝」に記されている「伊都国」があった地である。大陸との玄関口として古くから文化が栄え、さまざまな史跡や遺跡などが各所に残されている。
- ・糸島市の中央部を東西方向にJR筑肥線が通り、九州一の繁華街・福岡市天神や、九州の鉄道の玄関口・JR博多駅、空の玄関口・福岡空港へのアクセスもスムーズ。
- ・観光スポットとして、日本名勝の一つである桜井二見ヶ浦の夫婦岩が有名。三重県の伊勢が朝日の二見ヶ浦に対し夕日の二見ヶ浦とも呼ばれている。

地域の国際化を目指す

糸島市は、福岡県の最西部の玄界灘沿いに位置し、福岡市の中心部まで約30分、福岡空港まで約45分という好立地であることから、近年、観光地や移住したいまちとして人気を集めている。

こうした中、九州大学は、糸島市の東に隣接する福岡市内の箱崎キャンパスの施設の老朽化を受け、糸島市にキャンパスを移転（伊都キャンパスを開設）することを計画。しかし、新キャンパス周辺は、学生宿舎やスーパー等の生活利便施設の不足が問題となった。また、九州大学は、文部科学省の「スーパーグローバル大学」に選定されており、現在も約2,400名の外国人留学生在籍。2023年には3,600名の外国人留学生を受け入れる目標を掲げており、留学生向けの滞在施設の整備も課題となった。

このため、糸島市は、外国人留学生を含む学生たちが快適に暮らせるまちづくりに向けて、「糸島市九州大学国際村構想」を策定。地域に外国人留学生や外国人研究者を呼び込み、国際交流、国際教育を促進するなど地域の国際化を目指すこととした。

この構想を受け、2017年5月、糸島市、九州大学、西日本シティ銀行、地元不動産会社、西日本フィナンシャルホールディングスの5者で「地域の国際化に関する協定」を締結。それぞれの経営資源を活かしながら、学生寮、外国人留学生の短期滞在施設、ホテルの整備等を行うほか、糸島市が、交流施設、コンベンション施設、スーパーマーケットなどを誘致していくこととなった。



九州大学伊都新キャンパス (九州大学ホームページ)



「地域の国際化に関する協定」締結の様様 (西日本シティ銀行提供資料)

学生寮とホテルの整備

事業の第一弾として、九州大学の学生が利用できる学生寮（6階建、総戸数240）を地元不動産会社が建設。1日2食の食事が付いており、食事の種類はイスラム教徒の外国人留学生に配慮してハラル食事も対応している。また、寮内には、外国人留学生と日本人学生が交流できるようなコミュニティスペースも設置されている。

学生寮の隣には、九州大学の研究者や外国人観光客などが利用できるホテル（全85室）が同不動産会社の建設で開業予定。さらに、ホテルの近くに、温浴施設やフィットネス施設などを備えた健康複合施設も整備されており、国際村との連携が検討されている。



学生寮の外観 (西日本シティ銀行提供資料)

西日本シティ銀行の支援

「当行が支援した地元不動産会社は、以前から九州大学の旧キャンパス周辺で学生寮を運営していたため、学生寮の運営ノウハウはありました。しかし、ホテル事業は同社としては初めてだったことや、近隣に同様のホテルがなかったため、事業性を一から慎重に見極める必要がありました。そこで事業計画の策定段階から同不動産会社と協議を行い、事業の収益性等について検討を重ねてきました」（西日本シティ銀行）。

検討の結果、西日本シティ銀行と福岡銀行で、学生寮とホテルの建設に協調融資（総額約31億円）を実施することを決定。また、西日本シティ銀行の銀行取引アプリでホテル内レストランの情報発信等のPRに協力したり、同行取引先にホテル利用を紹介するなど、側面的な支援も実施している。



ホテルの外観と内装 (西日本シティ銀行提供資料)



西日本シティ銀行アプリで紹介されているホテル内レストラン (西日本シティ銀行提供資料)

今後の展望

学生寮は2020年8月にオープンし、関係者がPRなどに尽力した結果、2021年4月現在、満室で稼働している。全240室のうち外国人留学生も96名入居しており、多文化共生の一翼を担っている。

ホテルについては、新型コロナウイルス感染症の影響により、開業時期が2021年1月から2021年8月へと延期になったものの、コロナ禍収束後の外国人観光客の来日や国内観光客の増加による稼働が期待されている。

「引き続き、新キャンパス周辺地域が産学官金連携による学術研究都市として、さらには地域住民と外国人留学生が交流する国際村として活性化していくことを目指して、継続的に支援をしていきたいと考えています」（西日本シティ銀行）。

糸島市と九州大学の取組み

糸島市は、学術研究都市の構築を支援するため、固定資産税の特例制度を創設。新キャンパス周辺地域で新事業を創出する研究施設やホテル等を建設する場合、その土地や家屋に課税する固定資産税を5年間免除することとしている。また、学生寮やホテル建設にあたり、土地計画法等の法令を整理するなど制度整備を実施している。

九州大学は、留学生向けのサポート情報を発信するサポートブックを作成したり、糸島地域の国際交流イベントに関する情報発信などを行っている。